資料１

令和元年度認知症施策について

１、平塚市の認知症事業

平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画［第７期］）にて、重点施策として「認知症総合施策の推進」があげられました。「認知症にならないために」「重症化しないために」「地域で支えるために」を柱とし、「認知症の人にやさしいまち」を目指して、以下の認知症事業を令和元年度に実施いたしました。

〇認知症への備えのために

・認知症予防教室

認知症に関する正しい知識と認知症になるリスクを減らした生活スタイルを学び、たとえ認知症になっても安心して生活ができるように認知症に対する対応策を学ぶ教室。

令和元年度（令和２年１月末まで）

包括主催（市広報）　１１回　参加者数　２４８人

地域から依頼の教室　１７９回　参加者数　３，４５２人

・脳とからだの体操リーダー養成講座

認知症予防をめざした運動プログラム「コグニサイズ」を実際に体験しながら学び、お住まいの地域で広めていただく方を養成します。「コグニサイズ」とは、国立長寿医療研究センターが開発した体操で、息が上がるくらいの歩行や足踏みに、脳を刺激する課題（計算やしりとりなど）を一緒に行うものです。

１講座３日　講座実施回数３回　計９日間　受講者数４４人　修了者４０人

・アルツハイマー月間啓発事業　第３回「みんなで知ろう！認知症」

９月の世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症について広く市民に知ってもらう普及啓発活動を実施しました。

期間：令和元年９月２日～２９日

事業：パネル展示（市役所）

講演会＆カフェ（市役所）

音楽会とコグニサイズ体験（市役所）

湘南ベルマーレホームゲーム普及啓発ブース出展（総合公園）

平塚駅南口噴水ライトアップ（駅南口広場）

普及啓発街頭キャンペーン（駅北口・南口）

・認知症普及啓発シンポジウム「広げよう！認知症への備えと認知症支援の輪を」

今年度は神奈川県と共催し、「気持ちに寄り添い、笑顔がつながる地域」を考えていただくことを目的に様々な分野で認知症の方や御家族に関わっている方々の話を市民へ聞いていただくことで認知症への理解を促進します。

日時：令和２年２月１６日（日）　１１：００～１６：３０

場所：平塚市中央公民館

内容：認知症未病改善体験ブース　　１１:００～１３：３０

・認知症ＶＲ体験

・認知機能測定＆糖化度測定

・咀嚼力判定

講演会とシンポジウム　１３：３０～１６：３０

・基調講演　横浜相原病院院長（神奈川県病院協会副会長）吉田　勝明医師

・シンポジウム　高齢者よろず相談センターみなと職員、ハートケア港スタッフ、高齢者よろず相談センターまつがおか職員、セブンイレブン平塚中里店マネージャー、ＳＨＩＧＥＴＡハウスプロジェクトスタッフ、平塚市職員

参加者数：

認知症ＶＲ体験　７７人、認知機能測定＆糖化度測定　６２人、咀嚼力判定　６２人

講演会、シンポジウム　１３４人

〇症状の進行予防のために

・認知症相談件数

令和元年度は令和２年１月末現在までに市内の各よろず相談センターで受けた認知症に関する相談は総数で２，７３８件。１つのよろず相談センターで１月あたり約１８件の相談を受けていることになります。（継続相談を含む延べ件数）

・認知症初期集中支援チーム事業

認知症初期集中支援チームは平成２９年４月に設置され、原則として４０歳以上の在宅の認知症の人又は認知症が疑われる人及びその家族に対して、必要に応じて訪問や相談、指導、助言を行い、適切な機関へのつなぎや支援チームに関する普及啓発、情報収集及び観察・評価、継続的なモニタリング等を行います。

（医療法人社団みのり会 湘南いなほクリニックに委託。）

令和元年度は令和２年１月末現在で１３の包括支援センター全体で４５件の相談があり、うち２６件を認知症初期集中支援事業の対象者と選定いたしました。また、令和元年度中に終了した者は３３件になります。（平成３０年度から継続ケース２３件、令和元年１０件）

・認知症簡易チェックサイト

平成２６年度から平塚市のホームページに認知症初期スクリーニングシステム「これって認知症」システムを導入し、市民が認知症等の問題に対し、気軽にチェックできる環境を整備し、相談窓口の周知を図っている。

令和元年度アクセス数：６，３９０アクセス（令和２年２月末現在）

（本人用：３，０１７アクセス　家族用：３，３７３アクセス）

・ｉＰａｄによる認知機能検査

国立長寿医療研究センターが開発した認知機能検査アプリを使い、認知症地域支援推進員が地域のサロンや福祉村、介護予防教室などで検査を実施した。

検査結果により、脳いきいき講座への参加や医療機関への受診勧奨、サロンへの参加を促した。

検査実施人数：３８０人（うちＭＣＩ相当３７人）（令和２年１月末現在）

・脳いきいき講座

認知機能低下予防に効果的と言われている「コグニサイズ」の習慣化を目的とした３か月間（全１２回）の講座です。

「コグニサイズ」とは、国立長寿医療研究センターが開発した体操で、息が上がるくらいの歩行や足踏みに、脳を刺激する課題（計算やしりとりなど）を一緒に行うものです。

令和元年受講者数：３５人（前期２３人、後期１２人）

○地域で支えるために

・認知症サポーター養成講座

認知症の方やその家族の応援者である認知症サポーターを養成し、認知症への理解の普及、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

認知症サポーター養成講座は地域住民や教員、児童や生徒などを対象に公民館や学校等で開催しています。

令和２年１月末現在　　開催数：１０１回　　受講者数：２，４７３人

（受講者内訳）

一般の市民の方：５３５人　　小・中学校や学童、専門学校の学生：１，２６５人

企業等の従業員、従事者：６７３人（２８の企業や事業所に対して実施）、

認知症サポーターの延べ人数：２３，２６７人

・認知症サポーター養成講座修了者育成事業

高齢者よろず相談センターが主体となって、認知症サポーター養成講座修了者に対して認知症カフェの立ち上げや運営の手伝い、各よろず相談センターでの認知症予防教室の手伝い、認知症関連のイベント時のボランティアとしての参加などの活動を視野に入れた認知症サポーター上級研修を行っています。

令和２年１月末現在　　上級研修開催数：１０回　受講者：１０１人

上級研修修了者には認知症カフェの立ち上げや運営の手伝い、各よろず相談センターでの認知症予防教室の手伝い、認知症関連のイベント時のボランティアとしての参加などの活動をお願いしています

・認知症カフェ登録事業

認知症の方やその家族と地域の方が住み慣れた地域で、仲間づくりや生きがい支援、専門家等と相互に情報交換し、安心して集える居場所として広く市民に周知を行う。

登録認知症カフェ：９カ所

・ＶＲ認知症体験会

認知症への偏見をなくし、認知症になっても住み慣れた地域で幸せに暮らすことができる社会を作る一因となることを目的にヴァーチャルリアリティにて認知症の諸症状を体験した。

令和元年８月５日（月）　　参加者３０人（関係者向け）

令和元年１１月１２日（火）　参加者８５人（市民向け）

２、課題と対応策

来年度に向けて考える課題と対応策が以下のとおりです。

（課題）

市内には認知症の方が約１０，０００人程度いると推計されています。高齢者等実態調査において、御自身や御家族が認知症になるおそれがあることに対して「おおいに不安がある」と「やや不安がある」を合わせた『不安がある』と回答した方が全体の７２．６％となっており、市民の認知症発症に対する不安が表れています。

（対応策）

認知症についての詳しい理解として、より多くの年齢層の方に知っていただくために、認知症サポーター養成講座の開催やイベントの開催を実施していきます。

また、認知症への備えとして認知症予防教室の開催、認知機能検査プログラムの導入などを通じて認知機能の低下や認知症の早期発見、重度化防止に努めていきます。

（課題）

令和元年度第一回在宅医療介護連携推進協議会での御意見から抽出した課題は「認知症患者の方の服薬について」「高齢で独居の方が認知症」が問題提起されました。

（対応策）

市内の高齢者よろず相談センターに各１人配置している「認知症地域支援推進員」への相談を通した訪問や３師会と協力して認知症高齢者や独居の方の対応をしていきたいと考えています。

（課題）

認知症予防と認知症になっても、地域で安心して暮らせる環境整備が課題となっており、認知症カフェの設置や地域住民、企業等を含めた社会全体で見守る体制を構築していく必要がある。

（対応策）

登録していただいている認知症カフェ同士の交流会や認知症の御本人から御意見をいただき施策に活かしていくことなどを検討します。